

日本コミュニティ心理学会

第23回大会 プログラム

「コミュニティ心理学再考」

会期 2020年9月19日(土)・20日(日)

方式 オンライン

大会長 高橋 美保

## ごあいさつ

この度、第 23 回の大会の開催を東京大学でお引き受けさせていただくこととなりました。東京大学での開催は初めてのこととなります。日本のコミュニティ心理学の牽引者の一人である恩師、故山本和郎先生の母校で開催できますことを大変光栄に思っております。

コミュニティ心理学が日本のアカデミックな場に登場してから50年を経た今、大会テーマを「コミュニティ心理学再考」としました。大会企画特別講演で東京大学の下山晴彦先生に臨床心理学の視点からコミュニティ心理学を再考いただくとともに、大会企画シンポジウムでは「高齢化社会から考える“コミュニティ”の学際的意味—コミュニティ心理学の役割とは」と題して、心理学以外の様々な領域からコミュニティの学際的意味を問い直すとともに、そこからコミュニティ心理学の意義や役割を再考したいと考えております。

なお、本来であれば、忠犬ハチ公が待つ弥生キャンパスで皆様をお迎えする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、オンラインでの開催とさせていただきました。大変残念ではございますが、皆様の安全と安心を担保しつつ、学術的なコミュニティの維持発展ができればと思います。

それに伴い、プログラムは一部縮小・変更させていただくこととなりましたので、本プログラムでご確認くださいませ。また、参加の際には、パソコンやインターネット環境を整えていただくこととなります。この度はイレギュラーなことでご不便やご面倒をおかけしますが、何卒ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

一方で、物理的な距離を超えて参加できるメリットもございます。事前登録制としておりますので、期日までに登録の上ご参加ください。なにぶんオンライン開催は初めての試みとなりますので、事務局の対応にも至らぬところも出てくるかと存じます。皆様のお力をお借りして、“みんなで参加し、みんなで作る大会”とさせていただきたいと考えております。

オンラインで、多くの皆様にお目にかかれたいことを楽しみにしております。

日本コミュニティ心理学会第23回大会 大会長 高橋 美保

## 大会参加者へのご案内

### 1. 参加申し込み、参加費について

- ・参加は、事前登録制となっております。参加費は無料となっております。

**2020年9月12日（土）までに申し込んでください。当日参加はできませんので、ご注意ください。**参加申し込みをされた方に、追って、各セッションのアドレス（youtube および Zoom）をご案内いたします。

【参加申込フォーム】 <https://forms.gle/VDQojjHo5BupvXBeA>

※学会webサイト(<http://jscp1998.jp/>)に掲載されるリンクからでもアクセス可能です。

- ・非会員の方は臨時会員としてご参加いただけます。フォーム上で「臨時会員」を選択し、必要な情報を入力し、申し込みを行ってください。オンライン発表への参加は、学会正会員からの紹介等をいただくことを前提としております。詳細については、大会事務局 (taikai@jscp1998.jp) までお問い合わせください。

### 2. 名札等について

Zoom上で、お名前とご所属が表示されるようお願いいたします。

※「Zoom を利用したオンライン会議への参加」をご確認ください。

Zoom 上にお名前が表示されていない方については、別途確認の上、場合によってはご退出いただく場合があります。

### 3. その他

- ・オンライン開催により、参加者のご自宅職場等から遠隔での参加となります。
- ・参加に必要な機材等の準備は各自でお願いいたします。
- ・他者の同席や録音録画をご遠慮ください。

### 4. 連絡先

- ・当日のお問い合わせなどは原則受け付けませんが、事務局専用の発表者の方で不測の事態が起きた時には、追ってご案内する連絡先にご連絡ください。

<b>【第 23 回大会に関する連絡先】</b> <b>第 23 回大会事務局</b> 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学大学院教育学研究科 臨床心理学コース 高橋美保研究室 Email <a href="mailto:taikai@jscp1998.jp">taikai@jscp1998.jp</a>	<b>【学会(入会手続・住所変更等)に関する連絡先】</b> <b>学会会員管理事務局</b> 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター内 TEL 03-6824-9375 FAX 03-5227-8631 Email <a href="mailto:jscp-post@bunken.co.jp">jscp-post@bunken.co.jp</a> 受付時間 9:00~12:00/13:00~17:00
---	---

# 大会企画・プログラム

## 1. 大会企画シンポジウム

- 日時 9月19日(土) 13:00~15:00
- テーマ 高齢化社会から考える“コミュニティ”の学際的意味  
ー コミュニティ心理学の役割とは
- シンポジスト 堀田 聰子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科・教授)  
小田切 徳美(明治大学農学部・教授/日本地域政策学会会長)  
牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科・教授)
- 問題提起 久田 満(上智大学総合人間科学部・教授/日本コミュニティ心理学会会長)
- 司会 高橋 美保(東京大学大学院教育学研究科・教授)
- アドレス Zoomアドレスは当日までに登録者限定大会Webサイトでご案内いたします。
- 備考 大会参加登録者は登壇者によるZoomのシンポジウムを視聴し、質疑応答がある場合は、チャット機能による対応を予定しております。

## 2. 大会企画特別講演

- テーマ コミュニティ心理学再考—臨床心理学の視点から
- 講師 下山 晴彦(東京大学大学院教育学研究科・教授)
- 備考 オンデマンドで映像配信します。参加登録者は大会期間中いつでも視聴できます。

## 3. オンライン発表

- アドレス 各セッションのアドレスは、発表者にご連絡いたします。  
参加者には、当日までに登録者限定大会Webサイトでご案内いたします

### <1日目: 9月19日(土)>

- 19-A 9:40~10:00  
19-B 10:00~11:00  
19-C 11:00~12:00  
19-D 15:00~16:00  
19-E 16:00~17:00

### <2日目: 9月20日(日)>

- 20-A 9:00~10:00  
20-B 10:00~11:00  
20-C 11:00~12:00  
20-D 13:30~14:30  
20-E 14:30~15:30  
20-F 15:30~16:30

#### 4. 院生・若手研究者の集い

日時	9月20日(日) 12:00~13:20
対象	大学院修士課程1年生~修士あるいは博士課程修了後3年未満の方(臨時会員も歓迎)
アドレス	当日までに登録者限定大会Webサイトでご案内いたします
テーマ	研究生活と論文投稿
概要	院生部屋で集い、語らう時間は、院生生活の大事な一部ではなかったかと思いません。そうした場が持ちにくい現状の中での、皆さんの研究生活は、いかがでしょうか。今回オンラインではありますが、院生の皆さんが集える場を設けます。テーマは、ゆるく「研究生活と論文投稿」。コミュニティ心理学研究の石盛編集委員長も交えつつ、院生同士、研究生活について近況を報告したり、論文投稿について質問したりする場にできればと思います。お昼の時間に実施しますので、食事をしながら、自由にご参加ください。

#### 5. 会員の集い

日時	9月20日(日) 12:00~13:20
対象	正会員
アドレス	当日までに登録者限定大会Webサイトでご案内いたします
タイトル	コロナ禍におけるコミュニティ心理学の貢献 ーグループ・ディスカッションによる検討ー
概要	私たちは今、これまで捉えてきたコミュニティの非日常化の渦中にいます。他方で、急激に脚光を浴びることになったオンライン・コミュニケーションからは、新時代のコミュニティのあり方が伺えます。この未曾有の社会状況において、コミュニティ心理学はどのような貢献ができるでしょうか。「会員の集い」では、オンラインによるフリー・ディスカッションを行います。グループ・ディスカッションと全体セッションを通して経験を共有し、これからのコミュニティについて考える機会とします。自由に語り合う時間です。飲食を取りながら、どうぞお気軽にご参加ください。

#### 6. 総会

日時	9月19日(土) 12:00~13:00
アドレス	当日までに登録者限定大会Webサイトでご案内いたします

#### 7. 役員会(理事・監事会)

日時	9月18日(金) 18:00~20:00
アドレス	追って、ご連絡いたします。

## 大会日程

### 1日目

時間	オンライン
9:30- 9:40	開会の挨拶
9:40-10:00	個人発表(1名)
10:00-11:00	個人発表(3名)
11:00-12:00	個人発表(3名)
12:00-13:00	総会
13:00-15:00	大会企画シンポジウム
15:00-16:00	個人発表(3名)
16:00-17:00	個人発表(3名)

### 2日目

時間	オンライン	
9:00-10:00	個人発表(3名)	
10:00-11:00	個人発表(3名)	
11:00-12:00	個人発表(3名)	
12:00-13:20	院生・若手研究者の集い	会員の集い
13:20-13:30	休憩	
13:30-14:30	個人発表(3名)	
14:30-15:30	個人発表(3名)	
15:30-16:30	個人発表(3名)	

※ 各企画・セッションのアドレスは、追って登録者限定大会Webサイトでご案内します

※ 大会企画特別講演はオンデマンド配信しますので、登録者限定大会Webサイトで随時視聴できます

## 研究発表案内

### オンライン発表

受付： 別途ご案内する大会用アドレス（Zoom会議URL）に10分前にお入りください。

構成： 各セッションは、20分で構成されます。※発表者の交替の時間や、発表資料の画面共有等の時間も含まれますので、時間厳守でお願い致します。

発表： 1件につき7分以内

- ・発表形式はパワーポイントでも、画像でも、ポスターでも構いませんが発表資料は当日の議論がしやすいように、事前に大会参加登録者向けサイトに公開させていただきます（外部からの保存はできないように加工します）。そのため、当日の発表資料のデータを、9月12日（土）までに事務局あてに提出してください。

【事務局】Email taikai@jscp1998.jp

- ・当日、不測の事態でインターネットでの発表ができなかった場合、事前に提出された発表資料に対して、チャット等で質問をいただき、それに対して回答するなど別の手段で対応し、発表を行ったものとみなします。回答内容は、大会専用の大会Webサイトに、学会期間の翌日まで掲載します。無断で欠席された場合は、発表とはみなしませんので、必ず以下の大会事務局までお知らせください。

【事務局】Email taikai@jscp1998.jp

質疑： 1件につき8分以内

資料： 発表資料は大会参加登録者のみが閲覧できる形で、発表論文集とは別に9月17日中に登録者限定大会Webサイト上で公開します。

進行： 進行の詳細は、座長に一任されます。

機器： Zoomへのアクセス環境を含め、各自でご用意ください。

### 【事前確認】

- ・Zoomでの会議に参加したことがない方は、「Zoomを利用したオンライン会議への参加」を確認し、実施に必用なパソコンとインターネット環境の準備をお願いします。
- ・念のため、事前にZoomにおつなぎいただくテスト日を9月13日（日）13-15時に設けます。必要な発表者は、発表資料データ提出時にお知らせください。

### 【当日】発表者

- ・大会用アドレス（Zoom会議URL）に、ご発表の10分前にお入りください。スタッフが待機していますので、お入りになりましたら、チャット機能を利用し「発表者〇〇です。」とメッセージを送ってください。

- ・会議のホストは、事務局でつとめます。
- ・座長の指示に従い、カメラ・マイクをオンにして、発表を開始してください。また表示される名前は、「お名前（ご所属先）」に変更してください。※「Zoomを利用したオンライン会議への参加」を参照
- ・発表資料データは、発表者が各自、画面共有し操作してください。（画面共有の仕方について、ご心配な先生は9月13日13-15時のテスト日をご活用ください）

### **発表者以外の参加者**

- ・大会用アドレス（Zoom会議URL）よりお入りください。
- ・カメラ・マイクはオフの状態をお願いいたします。また表示される名前を「お名前（ご所属先）」に変更してください。※「Zoomを利用したオンライン会議への参加」を参照

### **質疑の方法**

- ・発表者と参加者が一つの画面で議論を展開する形となります。
- ・質問は、Zoomのチャットか挙手機能を使い行ってください。チャットでの質問は、発表中随時受け付けます。
- ・円滑な運営のため、座長からの指示に従うようにご協力をお願いいたします。
- ・質疑の時間を十分にとるために、発表論文集・発表資料（オンラインで事前公開します）もご活用ください。

※Zoomの使用について、疑問点やご不安な点等ありましたら、「Zoomを利用したオンライン会議への参加」をご参照の上、必要に応じて9月12日（土）までに事務局あてにメールでご質問ください。発表者の方は、別途ご案内する9月13日（日）13-15時のテスト日もご活用ください。

# 大会企画

## 大会企画シンポジウム

9月19日(土) 13:00~15:00

## 大会企画特別講演

オンデマンド配信

(9月19日(土) 10:00 ~ 9月20日(日) 16:30)

## 大会企画シンポジウム

1日目 9月19日(土) 13:00-15:00

### 高齢化社会から考える“コミュニティ”の学際的意味 ー コミュニティ心理学の役割とは

シンポジスト	堀田 聡子 (慶應義塾大学)
	小田切 徳美 (明治大学)
	牧野 篤 (東京大学)
問題提起	久田 満 (上智大学)
企画・司会	高橋 美保 (東京大学)

#### 企画趣旨

高齢者の増加に伴い、社会自体の高齢化が進む現代、私たちはかつてない高齢化社会を生きつつある。このような高齢化が進む社会をどう生きるかについて、コミュニティという共通の切り口から、様々な学問領域の専門家に論じていただく。その中で、コミュニティの学際的意味について改めて考えると同時に、そのコミュニティにおいて、コミュニティ心理学が果たすべき役割についても検討したい。

#### 問題提起

##### ■久田満氏

1970年代中頃、日本にコミュニティ心理学を導入した安藤延男と山本和郎は「コミュニティ」とは何かにこだわり、「地域」という日本語に置き換えることに猛反対した。彼らが理想とした「コミュニティ」とは、①人間を全体としてとらえる、②人々が共に生きる、③それぞれの生き方を尊重し、切り捨てられないことがない、④自分たちの責任で、主体的に生活環境に働きかけていくという4つ要素を基本とした価値的・態度的意味が込められている。この意味に従えば、コミュニティ心理学とは、この4つの柱を包含する世界を構築することを目的とした心理学の一分野であると言える。では今、彼らが目指した世界が実現されつつあるのだろうか。本シンポジウムでは、世界最速で高齢化している日本は、高齢者にとって「コミュニティ」となっているのかをシンポジストの先生方や大会参加者とともに再考し、どんな課題が残っているのかを明確にしてみたい。

## シンポジスト

### ■堀田聡子氏「地域共生社会の実現に向けて—compassionate communityを手がかりに」

個人や世帯が抱える生きづらさやリスクが複雑化・多様化し、属性別・対象者のリスク別に発展した社会保障制度では対応が難しくなってきた。他方、従来の共同体が機能不全に陥るなか、暮らしの場における人と人とのつながり、領域を超えた協働が地域での支え合いを産み出している。こうしたなか、国レベルでも「地域共生社会」の実現に向け、さまざまな改革が模索されている。

本報告では、「生老病死にかかわる問題を地域住民の手に取り戻そう」とする Compassionate Community の概念を手がかりに、国内外の実践、演者らが始動した「認知症未来共創ハブ (<https://designing-for-dementia.jp/>)」の活動を紐解き、共生をもたらす「土台」について考察を加えるとともに、循環共生型の地域社会への移行に向けたチャレンジを考えてみたい。

### ■小田切徳美氏「地方創生と地域コミュニティの役割—農山を中心に—」

国内の典型的な高齢化地域である農村においても、地域づくり（地方創生）の動きが進んでいる。特に、それは、高齢化が先行した離島や中山間地域で先発しており、これらの地域は「危機と再生のフロンティア」という位置にある。その中で、コミュニティの再生は重要な要素のひとつであり、地域課題を解決に取り組む「手作り自治区」（地域運営組織）の設立として進んでいる。本報告では、農村の地域づくり全体における、コミュニティ再生の位置づけを整理したうえで、「手作り自治区」の特徴と課題を論じる。あわせて、地方創生策の中で求められる政策課題も明確化したい。さらに、今後予想されるポスト・コロナ社会における農山村コミュニティの課題（ゲートテッド・コミュニティ固定化の回避）についても論じる。

### ■牧野篤氏「再帰性のほころび」から見た高齢者の社会的存在

#### —超高齢社会の地域コミュニティをとらえ返すために—

従来、高齢者に関する議論では、「発達可能性」と「老い衰えゆくこと」の対立の中で、老いの「多様性言説」と「肯定性言説」を「よりよく生きること」という価値志向性において接合することで、発達可能性の時間的拡張と普遍化を達成し、循環的・生成的ライフサイクルモデルを構成し、自己の再帰性を深化させる方向が示されてきた。しかしいまや、「再帰性のほころび」が社会に生まれており、それをどう個人のあり方として受け止めるのかが問われている。他者や社会的に確立した自己を必要とせず、その場その場の関係に入り込んでいく「そうあらざるを得ない存在」である「わたし」としての高齢者の姿がそこにある。その場に措かれることで、時間の中に「空間」を立ち上げ、コミュニケーションを発動し、同一性を拒否しつつその都度生まれ出る継起的存在としてそこにある「わたし」である。この観点から、地域コミュニティはどうとらえられるのか、ともに考えたい。

## 大会企画特別講演

大会期間中（9月19日（土）10：00 ～ 9月20日（日）16：30）

いつでも映像を視聴できます。大会登録者にオンデマンドで映像配信します。

### コミュニティ心理学再考 — 臨床心理学の視点から

講師 下山晴彦（東京大学）

#### 講演内容

「コミュニティ心理学」と「臨床心理学」は、果たして別物なのだろうか。「臨床心理学の観点からコミュニティ心理学を再考する」というお題をコミュニティ心理学会から、いただいた。このことを考えるならば、おそらく両者は異なっていることが前提であろう。しかし、私の知っている（特に英国の）臨床心理学は、活動はコミュニティにおいて多職種協働で実践されている。心理療法とコミュニティ活動は別物ではなくなっている。近年、日本でもコミュニティにおける臨床心理学の実践が求められるようになってきている。ポストコロナの時代には、さらにその傾向は強まるであろう。講演では、臨床心理学の発展にとってコミュニティに関わるのが如何に重要であるのかをみていく。そして、それとの関連でコミュニティ心理学の意義を論じてみたい。なお、臨床心理学にとってコミュニティが重要なポイントについて、次の5つのテーマから論じる予定である。①サービスギャップの乗り越えるために。②ICT を活用した心理支援を展開するために。③生活支援モデルに基づく臨床心理活動を展開するために。④新しいクリニカルパスを創るために。そして⑤公認心理師の限界を超えるために。

# オンライン発表

9月19日(土)

発表19-A~C 9:40~12:00

発表19-D~E 15:00~17:00

9月20日(日)

発表20-A~C 9:00~12:00

発表20-D~F 13:30~16:30

---

19-A 1日目 9月19日(土) 9:40~10:00

---

1 コンサルテーションをどう学ぶか

—英文テキストから見るスクールカウンセラー養成に必要な学び—

伊藤 亜矢子 名古屋市立大学

---

19-B 1日目 9月19日(土) 10:00~11:00

---

1 地域で子どもを支える活動をするスタッフが経験した活動の困難

橋本 有理 比治山大学大学院

三好 真人 比治山大学

谷渕 真也 香川大学

2 学生ピアサポーターにおけるタイプごとの活動内容の特徴

—認定後1年間の実践・検討・作業に費やした時間の観点から—

横山 孝行 東京大学相談支援研究開発センター

落合 舞子 東京大学相談支援研究開発センター

鬼塚 淳子 東京大学相談支援研究開発センター

大島 紀人 東京大学相談支援研究開発センター

高野 明 東京大学相談支援研究開発センター

3 役割別にみたピアサポーターの活動と動機付けの特徴

落合 舞子 東京大学相談支援研究開発センター

鬼塚 淳子 東京大学相談支援研究開発センター

横山 孝行 東京大学相談支援研究開発センター

大島 紀人 東京大学相談支援研究開発センター

高野 明 東京大学相談支援研究開発センター

---

19-C 1日目 9月19日(土) 11:00~12:00

---

1 インドネシア人イスラム信徒のメンタルヘルス・リテラシー に及ぼす宗教の影響

—統合失調症の場合—

田中 志歩 上智大学大学院

久田 満 上智大学

2 海外在留邦人を取りまくコミュニティ支援の可能性 (1)

—ジャカルタマザーズクラブにおける母親の心理的ウェルビーイングを高める取り組み—

圖子田 優子 With Kids

—海外に住む子ども達の心の健康をサポートする臨床心理士の会—

錦 織 ひとみ ジャカルタマザーズクラブ

3 海外在留邦人を取りまくコミュニティ支援の可能性 (2)

—コロナ禍における一時帰国者の抱える困難—

錦 織 ひとみ ジャカルタマザーズクラブ

圖子田 優子 With Kids

—海外に住む子ども達の心の健康をサポートする臨床心理士の会—

---

19-D 1日目 9月19日(土) 15:00~16:00

---

1 高齢者のコミュニティ意識と防犯対策に対する意識 :

千葉県市川市における高齢者の特殊詐欺被害防止の取り組みを対象にして

石 盛 真 徳 追手門学院大学

島 田 貴 仁 科学警察研究所

畑 倫 子 文京学院大学

2 避難情報の伝達行為による伝達者自身への影響

— “Saying is believing (SIB)” 効果に着目して—

福 光 直 美 広島大学・東広島市役所

相 馬 敏 彦 広島大学

梁 庭 昌 広島大学

3 子どもの SOS をキャッチする仕組みに関する研究

吉 永 真 理 昭和薬科大学薬学部

井 出 直 輝 昭和薬科大学薬学部

田 村 光 子 植草学園短期大学

---

19-E 1日目 9月19日(土) 16:00~17:00

---

1 高校生における居場所とその機能 —見落とされた居場所に着目して—

菊 地 浩 旦 上智大学大学院

久 田 満 上智大学

2 青年期における SNS 使用状況と連帯感,社会関係資本, 人生に対する積極的態度との関連

飯 田 昭 人 北翔大学

平 野 貴 大 沖縄大学

小 坂 守 孝 北翔大学

3 両親の夫婦関係および祖父母との関係性が青年期女子の心理的発達に及ぼす影響

佐 藤 美 月 鎌倉三浦地域児童相談所

久 田 満 上智大学

---

20-A 2日目 9月20日(日) 9:00~10:00

---

1 美術館ボランティアのコミュニティ形成の心理過程(1) :

世田谷美術館実施アンケートの内容分析

佐々木 美 加 明治大学

2 共同的音乐ickingを用いたコミュニティ音楽療法の実践(1)

梅 澤 剛 合同会社アイデンティティサポート

鈴 岡 恵 理 合同会社アイデンティティサポート

久 田 満 上智大学

3 共同的音乐ickingを用いたコミュニティ音楽療法の実践(2)

鈴 岡 恵 理 合同会社アイデンティティサポート

梅 澤 剛 合同会社アイデンティティサポート

久 田 満 上智大学

---

20-B 2日目 9月20日(日) 10:00~11:00

---

1 認知症患者と同居した経験のある孫の心理的負担の検討

関 口 有 美 ひとみクリニック

久 田 満 上智大学

2 身体障害者への援助行動の生起に影響を及ぼす援助者側の心理的要因(1)

落 合 優理彩 株式会社インテージ

久 田 満 上智大学

3 身体障害者への援助行動の生起に影響を及ぼす援助者側の心理的要因(2)

久 田 満 上智大学

落 合 優理彩 株式会社インテージ

1 災厄を生きる力 –東日本大震災被災地のエスノグラフィーから–

河野 暁子 立命館大学大学院

2 コレクティブ・トラウマモデルの理論的検討

川野 健治 立命館大学

齋藤 絢子 立命館大学

菊池 美奈子 立命館大学

坪田 祐季 立命館大学

河野 暁子 立命館大学

朴 希沙 立命館大学

張 亦瑾 立命館大学

安田 裕子 立命館大学

村本 邦子 立命館大学

コウ オイゲン メルボルン大学\*

3 コレクティブ・トラウマモデルに照らした東日本大震災被災地の文化とレジリエンス

村本 邦子 立命館大学

安田 裕子 立命館大学

張 亦瑾 立命館大学

朴 希沙 立命館大学

河野 暁子 立命館大学

坪田 祐季 立命館大学

菊池 美奈子 立命館大学

齋藤 絢子 立命館大学

川野 健治 立命館大学

---

20-D 2日目 9月20日(日) 13:30~14:30

---

1 ソーシャルサポートの発達的变化—中学生と大学生の比較—

山田文 上智大学大学院

久田満 上智大学

2 不登校児童生徒を対象とした大学での居場所活動における対人交流の変容過程(1)

—異年齢間の交流に注目して—

惣万啓太 北翔大学大学院

澤聡一 北翔大学

3 不登校児童生徒を対象とした大学での居場所活動における対人交流の変容過程(2)

—学生スタッフである大学生に及ぼす影響の検討—

澤聡一 北翔大学

惣万啓太 北翔大学大学院

---

20-E 2日目 9月20日(日) 14:30~15:30

---

1 質的研究からみる感情労働と影響要因の概観

山口和代 南山大学

久村恵子 南山大学

大塚弥生 南山大学

2 心理職を育てる「多職種連携ワークショップ」の実際

—その趣旨、インタビュー調査から見えてきたもの—

竹森元彦 香川大学

荊木まき子 就実短期大学

平野貴大 沖縄大学

3 香川大学多職種連携ワークショップにおける養成学生の理解

(心理×看護×保育×教員養成課程における対話の学習過程)

荊 木 まき子 就実短期大学

竹 森 元 彦 香川大学

平 野 貴 大 沖縄大学

---

20-F 2日目 9月20日(日) 15:30~16:30

---

1 プロジェクト創出方法を学ぶ高等教育の実践と評価

伊 藤 慎 悟 上智大学

山 崎 瑛 莉 上智大学、株式会社WE

戸 田 裕 昭 上智大学、株式会社WE

2 ナイトクラブにおける同時多発的 HIV/STI 予防啓発キャンペーン

松 高 由 佳 比治山大学現代文化学部

合 田 友 美 宝塚大学看護学部

日 高 庸 晴 宝塚大学看護学部

3 元非行少年を援助要請に向かわせたのは何か

(元非行少年の犯罪離脱のプロセスの分析から)

廣 井 いずみ 愛知みずほ大学

永 井 智 立正大学

## 第23回 日本コミュニティ心理学会大会運営委員会

大会長	高橋美保（東京大学）
副大会長	大西晶子（東京大学）
事務局長	平野貴大（沖縄大学）
運営委員	板東充彦（跡見学園女子大学）
	小栗貴弘（跡見学園女子大学）
	安婷婷（筑波大学）